



■ 中山間地域
■ 平野部
■ 琵琶湖

琵琶湖は
県土の
約6分の1

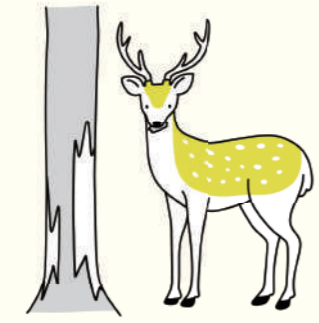
水源の森林で今起きていること

滋賀の森林は、琵琶湖や淀川流域の重要な水源であり、土砂の流出を防ぎ、生物多様性を保全し、木材を生産し、二酸化炭素を吸収するなど、人々の暮らしと切り離すことができない貴重な財産です。

しかし、様々な社会情勢やライフスタイルの変化によって、所有者や境界が不明な森林が増加し、手入れの行き届かない森林がみられるようになりました。

特に近年は、ニホンジカによる下層植生の食害に伴う土砂流出の恐れや、頻発する気象災害等による風倒木や流木、土砂災害などの新たな課題も生じています。また、森林所有者をはじめ山村地域に住み、森林を守り育ててきた地域のコミュニティ「やま」が、高齢化や過疎化により失われつつあり、森林に関わる人材確保も大きな課題となっています。

このような状況をそのまま放置すれば、森林の持つ様々な機能が損なわれ、滋賀県内のみならず、下流域も含めた人々の暮らしに深刻な影響をもたらすことが懸念されます。



どんな形でも、森林・やまに関わることが、琵琶湖にそそぐ一滴のしづくに

「滋賀県の森林に関わることの意義はわかったけど、具体的にどうしたらいいの?」と思われた企業の皆様へ、滋賀県ではニーズに合わせた様々な関わり方を提案しています。

森林整備への費用支援、社員参加による間伐や下刈り作業、里山整備のボランティア活動への参加など、森林整備への直接的な取組は、とてもわかりやすい関わり方です。しかし、初めて取り組む企業には少々ハードルを感じることもありますので、別のアプローチも必要だと考えています。

子どもの森林環境学習や、子どもが木に触れ合う「木育」への支援を通じて、次世代育成に貢献いただくこと、滋賀県産木材であるびわ湖材をオフィスに活用していただくこと等も立派な森林との関わり方です。

そして何よりも森林に出かけていただくことが第一歩になります。

木や土に触れて自然とつながり、山村地域の人々の暮らしに触れ、森林空間を活用した健康づくりやアクティビティを体験する。そんな楽しみ自体が、都市とやまをつなぐ人と経済の循環を生み出し、山村地域のコミュニティを維持し、森林を守り育てることにつながります。それが、滋賀県の進める「やまの健康推進プロジェクト」です。

どんな形でも森林・やまに関わることが、森、川、里、湖、海をめぐる循環の一助となります。琵琶湖水源の森林は、企業の皆様のご参画をお待ちしています。

近いやん、しがの森林

各地からのアクセス良好で参加しやすい「しがの森林」で活動をはじめませんか?

JR(琵琶湖線新快速)

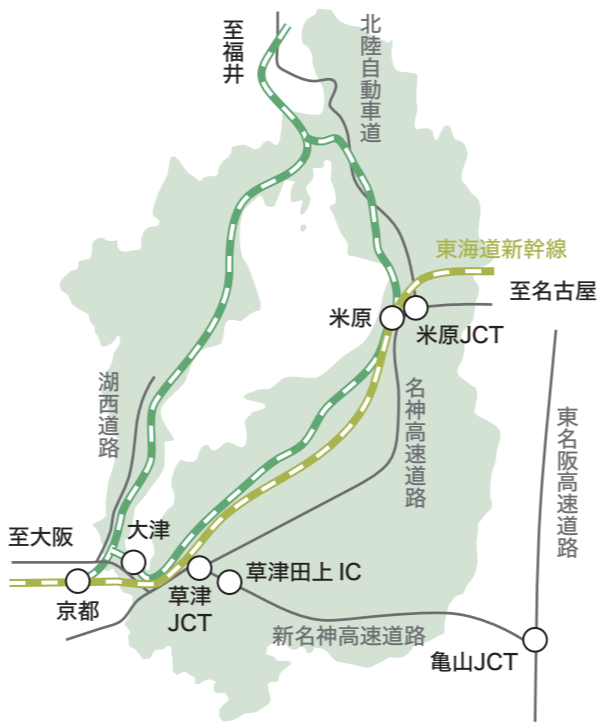
「京都」駅から「大津」駅へ約10分
「大阪」駅から「大津」駅へ約40分

新幹線

「名古屋」駅から「米原」駅へ約30分
「東京」駅から「米原」駅へ約130分

自動車

新名神「名古屋」ICから「草津田上」ICへ約125km
名神「吹田」ICから「草津田上」ICへ約50km



お問い合わせ 令和6年3月発行
滋賀県 琵琶湖環境部 森林政策課 E-mail dj00@pref.shiga.lg.jp
 〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1-1 TEL 077-528-3918/FAX 077-528-4886



琵琶湖 森林づくり パートナー

滋賀県版 企業の森林づくり



ご案内

滋賀県

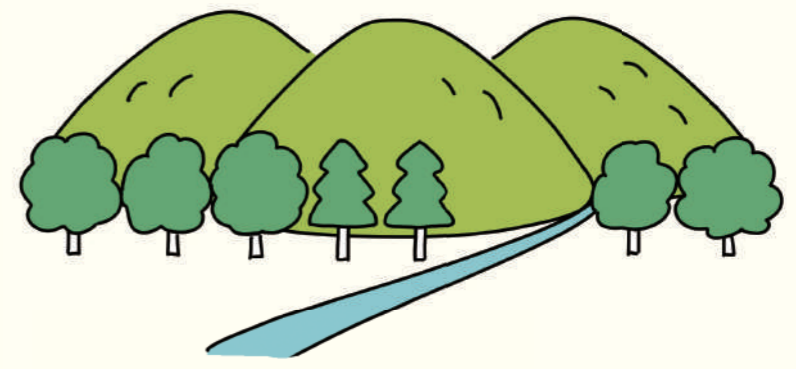
未来のために しがの森林で 今、企業にできること

近畿1450万人のライフライン 琵琶湖 その源はしがの森林

滋賀県は本州のほぼ中央部に位置する内陸県で県土面積の6分の1が琵琶湖、2分の1が森林となっています。伊吹山地、比良山地、鈴鹿山脈などを源とする、大小約450もの河川が琵琶湖に流れ込んでおり、琵琶湖を中心に滋賀全体がひとつの流域にまとまっています。

その水が流れ出るのは、瀬田川のみならず、宇治川、淀川と名前を変えながら京都、大阪を経て大阪湾へ流れるこの豊かな水は、滋賀県だけでなく下流域のライフラインとなっています。

この豊かな水の源は、琵琶湖を取り囲む森林であり、滋賀県の森林に関わることには、県内企業のみならず、下流域の企業や水とのつながりのある全ての企業にとって大きな意義があります。



琵琶湖の
出口は
瀬田川のみ

滋賀県の
約半分は
森林です

